

ボルゾイ
Borzoi

F C I スタンダード No.193

■原産国

ロシア

■用途

ハンティング・サイトハウンド、レーシング・ハウンド及びコーシング・ハウンド。ボルゾイは狼狩りよりも主に野ウサギやキツネを追うために用いられるハンティング・サイトハウンドである。高い敏捷性と持久力を兼ね備え、獲物を瞬時に手際よく捕まえる能力を持つ。コーシング及びレーシングにもよく用いられる。

■ F C I 分類

グループ 10 サイトハウンド

セクション 1 長毛あるいはフリンジのあるサイトハウンド

■沿革

ボルゾイの歴史は 15 世紀のモンゴル侵略に遡る。タタール人はアラブ原産の「Koutsi」というサイトハウンドを用いていた一方、ロシアの猟師はサイトハウンドを持たず、狩猟時には鹿やヘラジカさえも捕獲し、仕留めてしまうことができた桁外れの強さを持つ「Loshaya 犬」を用いていた。

「Koutsi」及び「Loshaya」の異種交配犬がボルゾイの原型となった。それらの犬はヴァシーリー 3 世が所有する祈祷書にも描かれていた。16 世紀から 17 世紀に亘り、ポリッシュ・グレーハウンドの新たな血統がそれらの子孫犬に気高さを加えた。それらの犬の名声はロシア帝国にまで及んだ。

この犬種の更なる発達は大型で、頑丈、且つどう猛な 髭のある「Courland Sighthound」である「Klock」との異種交配に影響された。それらの子孫犬は髭が無い、長毛で、細い毛の犬になった。それらの犬が「Gustopsovy」ボルゾイ・タイプの始まりとなった。

グレーハウンドの血統は同時にこの犬種へ「Chistopsovy」ボルゾイ・タイプの外見も追加した。その持久力で知られているマウンテン（ゴルスキー）・サイトハウンドと クリミア・サイトハウンドの血統も後に使用された。

ボルゾイはこの複数の異種交配の結果である。獲物を追う際のボルゾイの用心深さ、敏捷性及び素早さ、また、閃光のように突撃し、獲物を瞬時に手際よく捕まえる能力、その荒々しさ及び勇気、それら全ての重要な性質は、不整地で獲物を迅速に捕獲する際に大変役立つことが証明されている。また、ボルゾイは長距離での作業が必要な大草原での狩猟にも首尾よく用いられた。

18 世紀から 19 世紀には、サイトハウンドやハウンド及び特別な馬との「hunters」の群れで狩猟する姿が見られた。そのような狩猟ではタイプや作業能力が異なる数百頭もの犬で構成されていた。ニコライ・ニコラエビッチ大公による「Pershino hunt」は、申し分ない犬の美しさと、そのスピードや獲物への情熱の特に有名である。

ボルゾイ愛好家の初めての会議は 1874 年に開催されたが、ようやくタイプが統一されたボルゾイの最初のスタンダードをモスクワ・ハンティング・ソサエティーが承認したのは 1888 年である。このスタンダードの作成者は N.P. Yermolov 氏である。スタンダードには 20 世紀及び 21 世紀の 1925 年、1939 年、1951 年、1963 年、

1969年、1980年、1993年、1995年、2006年に変更が加えられたが、その基本原則は変わっていない。

■一般外貌

高貴な外貌で、体高が高く、引き締まっており、頑丈で、調和の取れた体躯構成をしており、幾分脚は長く、かなり細いボディである。僅かに細長い体躯である。牝は牡よりも長い。

皮膚は薄く、弾力があり、皺はない。筋肉は引き締まり、伸長し、十分発達している。丈夫な骨格構成だが、重量感はない。

■重要な比率

- ・ 牝の体高は仙骨の先端の高さと等しいか、それよりも1-2cm高い。
- ・ 牝においては、双方の高さは等しい。
- ・ 体長は体高よりもやや長い。
- ・ 胸深は体高のほぼ半分に等しい。
- ・ 肘の高さは体高の半分を僅かに上回っている。
- ・ 鼻先からストップまでのマズルの長さは、ストップからオクシパットまでのスカルの長さより僅かに長い。

■習性／性格

穏やかな気質で、視覚反応は非常にはっきりとしている。

典型的な歩様：獲物を見つける前は、ゆっくりとしたトロットの、規則正しい歩様である。獲物を追っている時は、フル・ギャロップである。

人に対する態度は、自然か友好的である。

■頭 部（ヘッド）

高貴で、狭く、長く、一般外貌と調和が取れている。頭部は大変引き締まっており、大静脈が皮膚を通して見える。側望すると、頭部のトップラインは長く、僅かに隆起している。眉弓及び頬骨弓は目立たない。

□頭蓋部（クラニアル・リージョン）

スカル

上望すると狭く、細長く、オーバルである。側望するとほぼ平らである。オクシパットは顕著である。

ストップ

殆ど認められない。

□顔 部（フェイシャル・リージョン）

鼻（ノーズ）

大きく、如何なる毛色でも常にブラックである。下顎に対しかなり突出している。

マズル

長く、すっきりしており、全体にわたり十分充実しており、真っ直ぐか僅かに下降している。鼻付近は僅かにアーチしている。鼻先からストップまでのマズルの長さは、ストップからオクシパットまでのスカルの長さより僅かに長い。

唇（リップス）

ピンと張っており、ピッタリと付いている。唇の縁は毛色に関わらずブラックである。

顎／歯（ジョーズ／ティース）

歯は白く、丈夫で、切歯は密集している。犬歯は離れすぎていない。シザーズ・バイト。レベル・バイトは許容されるが、望ましくはない。完全な歯列である。

M3 の欠歯及び1本または2本の P1 の欠歯は許容される。

頬 (チークス)

平らで、目立たない。

■目 (アイズ)

大きく、アーモンド型で、ダーク・ブラウンからブラウンである。眼瞼の縁はブラックで、ピッタリと付いている。

■耳 (イヤーズ)

小さく、薄く、良く動き、耳先は尖っており、短い毛で覆われている。目の位置よりも上で接近して後方へ付いており、首筋の方に向いている。両耳の先端は接近し、頸に沿って密着しながら下方向に向いている。警戒時は、両耳は軟骨より高く保持する。耳先は横または前方に向いている。時折、片耳または両耳が馬の耳のように立つこともある。

■頸 (ネック)

長く、すっきりとしており、筋肉質で、僅かにアーチし、オーバルで (側面が僅かに扁平である)、中位の高さで保持する。

■ボディ

トップライン

滑らかなアーチを描いている。

キ 甲 (ウィザーズ)

目立たない。

背 (バック)

幅広で、筋肉質で、しなやかで、柔らかい。

腰 (ロイン)

かなり長く、アーチしており、筋肉質で、幅広である。背と共に滑らかなアーチを描くが、これは牝よりも牡においてより顕著である。このアーチの頂点は、第1腰椎か第2腰椎の腰の中程である。

尻 (クループ)

長く、幅広で、適度に傾斜している。2つの寛骨頭の間で測った尻の幅は 8 cm 未満であってはならない。

胸 (チェスト)

横断面はオーバルで、深く、狭くはないが、尻よりも幅広ではなく、ほぼ肘関節にまで降りている。側望すると、前胸はやや突出しており、ほぼ上腕骨と肩甲骨の接合部の高さに位置している。肩甲骨の部分はかなり平らだが、仮肋に向かって徐々に幅広になる。仮肋は間違いなく短くなっている。

アンダーライン及び腹部 (ベリー)

脇腹に向かって急にタックアップしている。

■尾 (テイル)

シックル尾やサーベル尾で、細く、長く、豊富な飾り毛が密生している。尾は後脚及び脇腹の間を降り、寛骨頭まで達していなければならない。自然に立っている時には、尾は垂れ下がっている。歩様時には上に掲げられているが、背線より高くなることはない。

■四肢 (リムズ)

□前 軀 (フォアクォーターズ)

一般外貌 (ジェネラル・アピアランス)

前脚はすっきりしており、筋肉質で、前望すると完全に真っ直ぐで、平行である。肩の筋肉は十分に発達している。地面から肘までの高さは、体高の半分の高さを僅かに上回る。

肩 (ショルダー)

肩甲骨は長く、傾斜している。

上腕 (アッパー・アーム)

長く、適度に傾斜している。肩甲骨と上腕骨は十分角度を成す。

肘 (エルボー)

ボディの中心に対し平行に位置するか、フィールドでは僅かに外転することもある。

前腕 (フォアアーム)

長く、すっきりとしており、横断面はオーバルで、前望すると狭く、側望すると幅広である。肘は強く発達している。

中手 (メタカーパス) (パスターン)

かなり長く、僅かに傾斜している。

前足 (フォアフィート)

引き締まり、狭く、細長いオーバル (ヘアー・フットと呼ばれる) である。指趾は長く、アーチし、緊握しており、爪は長く、丈夫で、地面と接している。

□ 後 軀 (ハインドクォーターズ)

一般外貌 (ジェネラル・アピアランス)

すっきりとし、骨張っており、筋肉質で、十分な角度がある。後望すると真っ直ぐで、平行で、前軀よりも僅かに広く付いている。自然に立っている時には、僅かに後方に位置する。坐骨端 (坐骨結節) から垂直に降りたラインは、飛節と中足の先端に沿っていなければならない。全ての関節が十分な角度を成している。後軀の筋肉は非常に良く発達しており、特に大腿の筋肉は発達している。

大 腿 (サイ)

長く、頑丈である。

下 腿 (ローワー・サイ)

頑丈で、長さは大腿と等しい。

飛 節 (ホック・ジョイント)

幅広で、すっきりとしており、踵骨は十分に発達している。

中 足 (メタターサス) (リア・パスターン)

短く、垂直に付いており、真っ直ぐである。

後 足 (ハインド・フィート)

引き締まり、狭く、細長いオーバル (ヘアー・フットと呼ばれる) である。指趾は長く、アーチし、緊握しており、爪は長く、丈夫で、地面と接している。

■ 歩 様 (ゲイト/ムーブメント)

日々の生活における典型的な歩様は幅のある自由で無理のないトロットである。狩猟をしている時の歩様は全力で突進するギャロップである。

■ 皮 膚 (スキン)

薄く、弾力があり、ピッタリと付いている (皺はない)。

■ 被 毛 (コート)

毛 (ヘアー)

長く、豊富で、シルキーで、軽く、ウェーブしているか、大きなカールを成してい

る。小さなカールも許容される。

ボディの部分によって毛の長さは異なっている。頭部、耳及び四肢の内側の毛は非常に短く、ボディに密着している。背及び頸の毛はそれよりも長く、しばしばウェーブしている。大腿の外側と側面の毛はより短く、より小さなカールを成している。飾り毛はかなり長く、光沢がある。頸の飾り毛は「マフ」を形成し、胸及び腹の下側、前軀及び太腿の後ろ側にも飾り毛がある。尾の下部にも飾り毛があり、尾の根元の毛は通常カールしている。

毛 色 (カラー)

- ・ ホワイト。
- ・ 様々な色調の淡い色 (レッド・フォーン、グレー・フォーン、シルバー・フォーン (淡いライト・グレーの色調))。
- ・ 毛の根元は明るいレッド、もしくは明るいグレーで、地色はよりダークなレッド、もしくはグレーである。
- ・ レッドの地色にブラックのオーバーレイがある毛は、しばしばダークなマズル (セーブル) と共に見られる。
- ・ グレー (灰色から黄色がかったグレー)。
- ・ ブリンドル (パール、またはレッド、もしくはグレーの地色に筋やマーブルのようなダークなストライプ)。
- ・ レッド。
- ・ ブラック。
- ・ レッドとブラック間の移行色。

全ての毛色は単色か、パイド、またはタンを伴っても良い。通常は、いかなる毛色も下方に向かって明るくなっている。

ホワイトからブラックまでのあらゆる毛色の組み合わせが許容されるが、ブラウン、ブルー、イザベラ (ライラック) 及びそれらの色調、つまり鼻の色がブラックではない淡い毛色は許容されない。

■ サイズ

理想体高 牡： 75 cm - 85 cm

牝： 68 cm - 78 cm

■ 欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利及び伝統的な作業を行うための能力への影響に比例するものとする。

- ・ スタンダード内で記述されているサイズを±2 cm まで逸脱しているもの。
- ・ 体長が体高の 110% 超のもの、または 105% 未満のもの。
- ・ 十分な大きさのない目。奥まっている目、丸い目、明るい色の目 (ヘーゼルナッツの全ての色調)。
- ・ 小さい歯、歯間が離れすぎているもの。1本または2本の PM2 の欠歯。噛み合わせを明確に評価する場合は、アクシデントによる1本または2本の切歯の欠歯。
- ・ トップラインが十分に滑らかではないもの。顕著なキ甲。アーチが対称でないもの。トップラインの頂点から急激に尻方向にシフトしているもの。
- ・ タックアップが不十分な腹、太鼓腹、垂れた腹。
- ・ やや短い尾、高すぎる位置で保持する尾、片寄った尾、尾先がカールしている

尾。

- ・ 地色と同じ色調の小斑がボディにたくさんあるもの。
- ・ 真っ直ぐすぎたり、柔らかすぎたり、艶がなかったり、くしゃくしゃな被毛。フリンジや飾り毛の発達が乏しいもの。飾り毛がないもの。ボディ全体の被毛の長さが等しいもの。粗野すぎるもの。

■重大欠点

- ・ 緩く厚い皮膚で覆われた頭部、垂れた唇。鼻が十分に突出していないため、側望すると先端を切り落としたように見えるマズル。非常に目立つストップ。
- ・ 色褪せた（十分にダークでない）鼻、あらゆる色の眼瞼または唇。部分的に色素が欠乏している（ピンク）鼻、唇、眼瞼（怪我が見られない場合）。
- ・ 小さな目、目の色がイエローなもの、視力の弱いもの、瞬膜が発達しすぎているもの。
- ・ 「欠点 (Faults)」に記述されていないあらゆる欠歯。
- ・ 耳付が低いもの、首筋に沿って下に向いていない耳。離れすぎて付いている耳、大きすぎる耳、厚い耳、重い耳、固い軟骨で覆われている耳、耳先が丸いもの。
- ・ 体長が体高の 112% 超のもの、または 103% 未満のもの。体高が±2cm 超逸脱しているもの。
- ・ 頸が高い位置または低い位置で保持されているもの。横断面が丸いもの。
- ・ 顕著なキ甲から尾の根元に向かって傾斜しているトップライン。顕著なローチ・バック、牡でストレート・バックのもの。
- ・ 狭い腰、短い腰、長すぎる腰（腰の長さは背の長さに相当する）、真っ直ぐな腰。
- ・ タックアップしていない腹。
- ・ 非常に重い前腕、横断面が丸い骨。
- ・ 丸みを帯びているか、平らな肉厚の足、指趾が広がっているもの。
- ・ 短い尾、太い尾、飾り毛のない尾。
- ・ ボディに地色以外の色の小斑があるもの。ボディの毛色が下方に向かって明るくなっていないもの。
- ・ ボディ全体に豊富な被毛があるもの、過度な下毛、粗野で、堅く、剛毛な被毛。飾り毛が欠如しているもの。

■失格

- ・ 攻撃的または過度のシャイ。
- ・ 肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・ 毛色：鼻がブラック以外のブラウン（ココア、コーヒー、チョコレートを含む）、ブルー、イザベラ（ライラック）及び淡い毛色。
- ・ 色素が完全に欠乏している（ピンク）鼻、眼瞼、唇。
- ・ 目：あらゆる色調のグレー、グリーン、ブルー。異なる色の目。
- ・ 歯：オーバーショット、アンダーショット。ライ・マウス。歯間が離れていない場合の不完全な切歯。損傷しているもの以外で犬歯が最低 1 本欠歯しているもの。上顎と下顎の犬歯が正しく噛み合わさっていないもの。正しく閉じない顎。
- ・ 四肢：ナックリング・オーバー。デュークローがあるもの。
- ・ 尾：コークスクリュウ・テイル。損傷した尾椎、部分的であっても断尾された尾。

注：・ 牡犬は明らかに正常な 2 つの睪丸が陰囊内に完全に下降していること。

- ・機能的かつ臨床的に健全であり、犬種のタイプを有しているもののみが繁殖に使用されるべきである。